

文庫あれこれ◆残暑お見舞い申し上げます。7月末にひどい落雷があったそうですね。若手スタッフさんのPCが壊れたと聞きました。◆8月はじめは、暴風雨の影響で少し涼しいと思っていたら、このところ毎日とても暑い日が続いています。東京は連日熱帯夜でしたが、大室の夜は涼しい!! (8/14) ◆東京では、今年、蝉が鳴かないとみんな言っていました、気のせいでしょうか? ◆今日(66年目の終戦記念日)から娘の家族も帰って明日から文庫開館、母もショートステイを楽しみにしている、さあ、文庫の1週間がはじまるぞ!と、建物の外にかかった蜘蛛の巣を掃いながら、文庫の玄関(の外)の屋根の下を長ホウキで掃った途端、蜂が飛び出した!…。屋根の軒下に働き蜂が数匹せせと巣作り。娘は、ああ、時間があれば、これから蜂がどんなにして巣作りするか観察したいところだけど、と言いつつ帰京してしまい、どうする? ◆そこでスタッフのMさんに電話して市の環境課を聞き連絡→産業課で、市ではやっていないので、民間の駆除会社をお教えします。あとは、ネットで市のHPに一覧が載っていますから。→ここ一番ちかいM養蜂場(駆除もやってるんですね)に電話するも、留守電、お盆ですものね。→家まわりを依頼する!ハウジングの担当者もお盆休み。→四季折々に植木の世話をしてくれるTさんに電話。気の毒に働き蜂は巣ごとフマキラーの何とやらに撃沈されたという蜂の巣騒動顛末記でした。◆先月からどこかへ隠れていたメガネが見つかって月を仰ぐ。老人の私には、まん丸お月さんには懐かしい兎がくっきりと(満月は14日でした。八月十五夜とは旧暦で今年は9月12日)。◆長く開けても、だからと言って普段よりたくさんの利用者があるわけではないのだけれど、と思いつつ皆さんをお待ちしています、スタッフの方たちと。◆うちの余っている方、できたら18日までに、ご寄付ください。友人が福島被災者に届けます。(西村)

新しく文庫に入った子どもの本 その3

いただいた絵本ほか

『はけたよはけたよ』(かんざわとしこ文にしまきかやこ絵 偕成社)『つるつるしわしわーとしをとるおはなし』(バベット・コール作 ほるぷ出版)『絵で見る世界動物地図』(同朋舎出版)『こどもことば絵じてん』(三省堂)

☆これからの催し物☆

今月

◆夏休みロングオープン(8月16日~22日)

★お詫び: 調べ学習作品展は、貸出先の都合でできなくなりました☆

10月

♪秋の夜長のおはなし会: ゲストによる朗読・語り

10月15日(土) 17:00~19:00

握手(井上ひさし)・大つごもり(樋口一葉)・

役にたたない日々(佐野洋子) 予定

12月

★クリスマスお楽しみ・おはなし会(12月18日)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆8月は16日(火)~22日(月) 開館
10:00~15:00(全日)

◆9月は変則です。10日(土)、11日(日)

◆10月は通常。15日(土)、16日(日)

◆11月は通常。19日(土)、20日(日)

◆12月も通常。17日(土)、18日(日)

※文庫の時間: 土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》みんなで勉強会(おはなし・沙羅)

開館土曜日 11:00~13:00

★子どもたちにおはなししてみたい方、読書ボランティアの方、おでかけください。

今年度から、会費をあげさせていただきました。いただいた会費をもとに、活動できるよう、努力していきたいと思っております。ご了承ください。

連絡先: 沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

沙羅の樹文庫だより



シャボテン公園から母孔雀が飛んできた! 子を探しに! 子どもの孔雀は右側の木の高いところで、動けなくなって。でも、さすがおかあさん、誘導よろしく 無事、2羽そろって帰っていきました。

夏の朝 レイチェル・フィールド詩

早起きして わたしは見た。
あかつきが そおとしのび足で
空を 歩いていくのを。
カモメが 飛んでいくのも見た。
それから海が いちばんきれいな
青いサマードレスを着こむのも。
松の木とネズの木が たくさんの
みどりの腕を さわんさわんと
揺り動かすのも きいた。
わたしには はっきりと
風の呼ぶ声が きこえたのだ。

「早く 出ておいで! きょうは
もう 始まってよ!」

(アーサー・ビナード/木坂涼編訳『ガラガラヘビの味』より)

☆初夏のうたのようですが、気に入りました

これからの
催し物

今月

海の日のお

新しく文庫に入った大人の本

成 2』(宮城谷昌光著 講談社) ※リクエスト
『不可能』(松浦寿輝著 講談社) 『なぎさホテル』(伊集院静著 小学館) 『下町ロケット』(池井戸潤著 小学館) ※直木賞受賞 『太宰治賞 2011』(筑摩書房)
『村上春樹 雑文集』(新潮社) 『死ぬ気まんまん』(佐野洋子著 光文社) 『わたしの開高健』(細川布久子著 集英社) 『紫式部の欲望』(酒井順子著 集英社)
『週末』(ベルンハルト・シュリンク著 新潮社) 『ゲバラ最期の時』(戸井十月著 集英社) 『百年の孤独を歩くーガルシア・マルケスとわたしの四半世紀』(田村さと子著 河出書房新社) 『それでも人生にイエスと言う』(V. E. フランクル著 春秋社)
『津波と原発』(佐野眞一著 講談社) 『取り返しのつかないものを、取り返すためにー大震災と井上ひさし』(大江健三郎、内橋克人、なだいなだ、小森陽一著 岩波ブックレット)
『溺れる白鳥』(ベンジャミン・ブラック著 武田ランダムハウスジャパン) ※文庫
『天使の頬を持つ人形たちー安田はるみ人形集』『ことばの教育と学力』(秋田喜代美、石井順治著 明石書店 寄贈本)
『日本中枢の崩壊』(古賀茂明著 講談社) 『絵で読む般若心経 上下』『生かして生きる』(清水谷孝尚著 講談社)
新書: 『日露戦争史』 『壬申の乱』 『昭和の名将と愚将』
『水泳らくらく入門』
文庫: 『炎立つ 1~4』(高橋克彦著) 『チンギス・ハーン一族』(陳舜臣著) 『死ぬこととみつけたり 上下』(隆慶一郎著) 『天馬駆ける 上下』(安部龍太郎著) ほか主に時代小説、藤沢周平もので文庫に単行本のないものなど 45冊※別置します。

新しく文庫に入った子どもの本 その1

5周年の記念にビッグ・ブックを揃えました!

『わにわにのおふろ』(小風さちぶん 山口マオエ 福音館書店) 『すてきな三にんぐみ』(トミー・アンゲラー さく いまえよしともやく 偕成社) 『とべ バッタ!』(田島征三 さく 偕成社) 『もりのかくれんぼう』(末吉暁子 さく 林明子え 偕成社) 『おおきなきながしい』(さとうさとる文 むらかみつとむ絵 偕成社)
★ビッグブックはちょっと高価です。だいに読んでください。★

<ホヤホヤ文集>助っ人頼末記

中村 慎一

ホヤホヤの文集を撫でながら、よく出来ました!と思いきりわが身を褒めてあげました。

去年の冬頃から来年は5周年になるから文集を作りましょうというお話はチラホラ聞こえていました。またまた思い付きの話に花が咲いてるようで、どうせできっこないよと高を括っていました。

3月末まで原稿出してくださいね……。どうせロクなものじゃないだろうと思いつつも、とりあえず間に合わせしておきました。その後、増築する、しない、なんていう計画が持ち上がってるようで、そこまでやらなくてもいいんじゃないの……と、ネガティブな発想になりがちです。これで、「文集」も「増築」も共倒れとなります。やれやれ何を考えていることやら。

私の知らない内に増築計画だけは、しっかり進行していたようで、あれよあれよという間にブルトーザーが入り、整地が終わり、増築がはじまり、5月の開館日までには落成していました。その後、没になってたはずの文集発行の話がよみがえり(否、没なんて話は1度もなし)、増築でお金使っちゃって、印刷屋に払うお金がないんで、出来るだけ自前で版下まで仕上げたいとのこと。

印刷屋の締め切りまで、あと2週間しかないじゃないの、それはあんまりにも無茶な話でしょう。おまけに広瀬さんは忙しい人なんで月末にならないと校正原稿が届かないということです。こうみえても私も結構忙しいんですけどね。

☆----

変換作業をしてくれるとあったでしょ……

校正・版下までやるなんてお約束はしていません。

せめて1ヶ月くらい伸ばしてくれませんか。

海の日の記念日まで何が何でも間に合わせないと いけないんです。

だれも間に合わなくても文句いいませんよ。

そう決めたんです。お願いします。

----☆

しょうがないなあ……。やれるとこまでやってみましょうか。

—それからの2週間というもの、文書編集で深夜までの作業の連続—

締め切りまで一週間という最後の校正のときは、細かな修正がドサーっとでる。ついに「あと1ヶ月伸ばせませんか」と弱音をはいてしまった私に

☆----

そのお話はもうしないお約束ですよ

そんな約束はしていません……

—任されてはいるんですが、口だけは人一倍出します。(当たり前。製作意図はしっかり伝えないと)クソーなにがなんでもヤレってことね……。わかったよやってやろうじゃねえ〜。

もともと私は電子書籍派で、お金のかかる本の出版には否定的なほうです。

電子出版ならカラー写真も使えるし、音楽やハイパーリンクも使えて、校正もその場で処理できるのに、なんで今更紙なんか印刷しなけりゃいけないのよ。

グチったり・ボヤいたりしながらも、どうにか期日まで間に合わせましたが、どこかに校正ミスはありはしないかと一抹の不安を残した時間切れでした。

—できれば次回は10周年と言わずに、毎年「電子書籍」で文集を発行できたらいいな〜と思いながら、「沙羅の樹文庫の日々」の電子書籍化に取り組んでおります。

※その後、電子書籍化も完了しましたので、下記にアップロードしました。

<http://saranokibunko.com/e-book/e-book.html>

楽譜のページは、「さらのき文庫」の歌が流れます。

目次「広瀬恒子 講演録」87ページをクリックで、ページにジャンプ!

どうです、すばらしいできばえでしょう!!

♥中村さん、感謝のこともありません。沙羅の樹はやると言ったら、死なない限りやるのです。これからも乞う、ご協力。♥

★ところでみなさん、文集はいかがでしたか?★

新しく文庫に入った子どもの本 その2

絵本

『密林一きれいなひょうの話』(工藤直子作 和田誠絵 銀河社) 『しげちゃん』(室井滋作 長谷川義史絵 金の星社) 『野うさぎのブルー』(リダ・フォシュ文 ロジャンコフスキー絵 いしいももこ訳 童話館出版) 『ちか 100 かいだてのいえ』(いわいとしお作 偕成社) 『ひとりぼっちのかいぶつといしのうさぎ』(クリス・ウォーメール作・絵 徳間書店)

読み物

『小さな小さな七つのおはなし』(リリアン・ムーア作 福本友美子訳 日本標準) 『あやかし草子』(那須正幹作 日本標準) 『スカーレットーわるいのはいつもわたし』(キャシー・キャシディー作 偕成社) 『ボグ・チャイルド』(シヴォーン・ダウド作 千葉茂樹訳 ゴブリン書房)